



学校を開き、生徒の未来を拓く

□ 後期生徒会役員選挙と生徒会活動

後期生徒会役員選挙の立会演説会と投票が9月28日にあり、翌29日に結果が発表されました。今回の選挙では、生徒会執行部と専門委員長を合わせ21名の生徒が立候補しました。その内の15名は3年生の生徒です。「自ら求め 考え 判断し 行動する力」を具現する姿であり頼もしく感じています。

複数の候補者が立候補している役職もあるため、中には残念な結果に終わった生徒もいます。受け入れがたい悔しさや悲しさが心にあると思いますが、「私は、巢南中学校を〇〇したい」という強い願いをもって全校生徒に堂々と主張した姿は尊いことです。自らの意志で動いたことを誇りに思い、後期生徒会役員を支えてくれることを願っています。

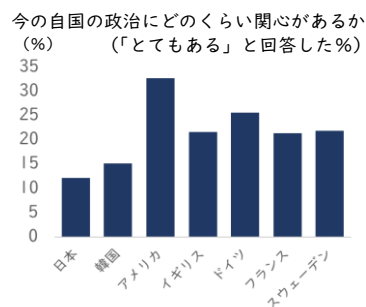
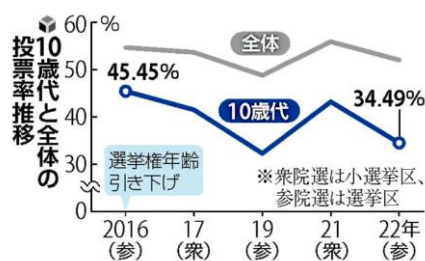
■ 10代の国政選挙投票率と「日本と諸外国の意識に関する調査」結果

平成27年6月の公職選挙法の改正により、投票権が18歳に引き下げられました。せっかく得ることのできた投票権ですが、10歳代の投票率を国政選挙で見ると右のような結果です。

若者の投票率の低さを毎熊浩一教授（島根大学文学部 行政学専門）は、「他の年代と比べて社会との接点が少ない」「住民票に関する問題」「なじみの薄い選挙に対する心理的抵抗感」の3つを理由に挙げています。

少し古いデータとなりますが、内閣府の令和元年度の子供・若者白書にあります「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」によると、「自国の政治への関心」が日本の若者は諸外国と比較して最も低いことが分かります。

このような実態のなか、3年生の生徒は投票権を3年後に得ることとなります。生まれた月にもよりますが、次の参議院議員選挙では、実際に投票を行う生徒が出るということです。



■ 生徒会活動を通して

上と同じ調査で「政策決定過程への関与」の質問に対しては、右のような結果を表しています。

学習指導要領では生徒会活動の目標を「生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。」と示しています。

生徒が社会の中核を担う頃、「これからの社会を創造する」人材に育てていることを本校では願い、学校の最上位の目標を『自ら求め 考え 判断し 行動する力』と定めています。

生徒会活動は、「これからの社会を創造する」ことの疑似体験をする場だと考えています。さらに生徒会役員選挙で投票するという事は、自分たちの学校生活を豊かで幸せなものにするために、立候補者の公約から公正に判断し、私たちの代表を決めるということです。スケールは違いますが、このことも地方選挙や国政選挙等の疑似体験となります。

そういった意味で、後期生徒会役員選挙はよい体験を積みました。そして、これから動き出す後期の生徒会活動に期待をしたいです。

